

第 380 回放送番組審議会

1 日 時 2017 年 11 月 21 日(火)午後 4 時～午後 5 時 30 分

2 場 所 tvk 第 1 会議室

3 委員総数 8 名 出席者 6 名、欠席者 2 名 布施勉副委員長、二宮泉委員

出席委員; 山田一廣委員長、伊藤有壱委員、白石俊雄委員、林義亮委員、五大路子委員、
吉川知恵子委員

テレビ神奈川; 押川渉取締役編成局長、角田光広スポーツ部長、富樫吉樹スポーツ部副部長、
近藤和之編成部長

4 議 題

(1) 放送番組

資料:①11 月のタイムテーブル ②11 月～12 月、年末年始の特番一覧表

(2) 視聴合評

Jリーグサポート番組「ファイト！川崎フロンターレ」

毎週金曜日午後 10 時 30 分～10 時 55 分

(3) その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2017 年 10 月 14 日(土)～2017 年 11 月 17 日(金)

・第 379 回(10 月)放送番組審議会の議事報告(「猫ひたプラス」2017 年 11 月 10 日放送 VTR)

・BPO 報告

5 議事内容 2 ページ以降に記載

6 審議機関の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日
特になし

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1)2017 年 11 月 10 日(金)「猫ひたプラス」(午後 12:00～午後 12:15)の「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2)審議概要を当社インターネットホームページに掲載

近藤編成部長

それでは、第 380 回目の番組審議会を始めさせていただきます。山田委員長お願いいたします。

山田委員長

それでは始めさせていただきます。よく「スポーツの世界でアマとプロの差が歴然と開いているのは相撲ではないか」ということを何かの本で読んだことがあります。それと同じプロスポーツの中で、頭のいい人が揃っているのも、これも大相撲の世界ではないかということも、人から聞いたことがあります。嘘か本当かわかりませんが、その相撲界が今、大いに揺れております。しかも久しぶりに誕生した日本人横綱が昨日で 5 敗目ということで、ファンの期待を大いに裏切っているという状況です、相撲の話はここら辺にいたしまして、第 380 回の番組審議会を開催させていただきます。今日は中村社長が欠席で、押川取締役の方から、よろしくお願いいたします。

押川取締役

押川でございます。中村は別の会合がございまして、今日は欠席とさせていただきます。お許しください。このあと、懇親の席に出席させていただきますので、またその場でいろいろとお話をさせていただきます。実は 10 月の番審の席では、「10 月 22 日には、ベ이스ターズが日本シリーズ進出をかけたファイナルステージの模様をお届けする特別編成を予定しております」と申し上げましたが、残念ながら台風の来襲によりその日の試合が中止になり、その振替の予備日の前に、勝敗が決まってしまったことで、残念ながらファイナルステージの模様をお送りすることができませんでした。また翌週 29 日も同様に台風が来襲しまして、今日このあと視聴合評をいただく「ファイト！川崎フロンターレ（通称：ファイフロ）」がございまして、スポーツ部が「横浜マラソン」の完全中継を担当して準備を進めておりました。これは規模的には我々としては全社を挙げて、いわゆる他部署の人間たちも準備をして当日に備えておりましたが、前日に中止ということで、残念ながら放送することが叶わずということ

で、私どもは2週に渡って大型の特別編成番組をお送りすることができませんでした。実はその2番組についての話題も、今日お話しできればと思っておりましたが、お話しできなくなったのは非常に残念です。それに代わって今日は視聴合評をいただくわけですが、また貴重なご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

山田委員長

ありがとうございました。それでは、本日の議題に沿って進めてまいりたいと思っております。まず最初に放送番組について。これはお手元の11月のタイムテーブル、11月から12月の年末年始特番一覧表を参照していただきながら、事務局からお願いいたします。

近藤編成部長

それでは11月のタイムテーブルのご紹介です。こちら4月からスタートした「関内デビル」を11月の表紙にさせて頂きました。今まではDISH//の小林さんが出演者としておりましたが、DISH//5人組がこの10月から全員、代わり替わりとなりますが、出演するということで表と裏でDISH//の紹介、番組出演者の紹介になります。開けて、「部活応援プロジェクト しゃかりき!」では、えひめ国体がございまして、その特集です。「ウエイトリフティング 94Kg 級優勝」ということで、その模様などをお伝えします。「ラグビー中継」は大学ラグビーと、高校ラグビー県決勝。こちらは日曜日に決勝がございまして、桐蔭学園高校が3年連続で鉄板の強さをみせました。その後「高校バレー決勝」、「高校サッカー準決勝・決勝」ですが、神奈川代表はアンダー18 日本代表に選ばれていた関係がありまして、いつもは11月の前半に行いますが、11月25日に準決勝、12月3日に県決勝がございまして、スポーツ中継目白押しという形で構成しております。タイムテーブルを開いて、テーブル面を飛ばしまして、その次です。馬車道150周年ということで、11月5日「横濱馬車道物語」を放映させて頂きました。その後、毎年恒例になっておりますダイドードリンコさん提

供の「日本の祭り」。今年は「三浦市・菊名の飴屋踊り」ということで、11月23日午後12時から12時55分で編成しております。続いてレギュラー番組の「キンシオ」、「映画の時間」ということで「リトル・マエストラ」、「婚前特急」のご紹介です。タイムテーブルは以上になります。続きまして、こちら「11月・12月の年末年始特別番組一覧」をご紹介させていただきます。11月23日は「じゃ、西さがみでも行くか!『西さがみ』ってどこ?ザ・スペシャル!!」。何回かご紹介している番組ですが、今回は総集編としてオンエアします。その後「日本の祭り」で、こちらは先ほどタイムテーブルでも紹介いたしましたが、毎年10月23日に三浦市の南下浦町というところで行われている白山神社例祭に奉納されていた踊りだそうです。元々は村を回って飴を売り歩いたという、飴売りが伝えたことから「飴屋踊り」ということです。11月25日「人生100年時代をイキイキと 脳神経外科医の地域診療」、こちら営業持ち込みで町田市のお医者さんの番組です。11月25日「全国高校サッカー県準決勝中継」でこちらは生中継です。tvkとしては準決勝の生中継は初めてになります。12月1日「必殺シリーズ 仕事人大集合」ですが、この期間中私どもは視聴率週間ということで、神奈川県内で視聴率をとっておりますので、その一環として「必殺シリーズ」を放映します。12月2日「Jリーグ中継 浦和レッズ対横浜F・マリノス」こちらは最終節です。浦和レッズさんのホームからお届けしますので、テレビ埼玉さんの制作を購入して中継します。12月2日の「必殺シリーズ」も視聴率週間のための購入となります。12月3日「全国高校サッカー県決勝中継」、生中継です。12月3日の「必殺シリーズ」も視聴率週間のための購入となります。12月10日の「全日本少年サッカー」ですが、こちらは11月26日に行われます少年サッカーの神奈川県大会、こちらをダイジェストでお送りします。12月10日の「クラフトカップ争奪 日本リトルシニア」。こちらは中学野球の試合で、こちらも

すでに11月5日に終了しております。こちらをダイジェストでお送りします。その後「書道ガールズ2017」、これはRNBさん、愛媛県にあります南海放送さんからの購入番組です。今年で10回目の書道パフォーマンス甲子園をずっとやられているようで、南海放送さんがそれを特別番組として編成したものを購入させて頂いております。その後「壇蜜と天才画家の影法師」。こちらはABSさん、秋田放送さんからの購入番組です。天才画家というのが小田野直武さんという、江戸時代中期の秋田藩士の画家だそうです。平賀源内から洋画を学び秋田蘭画と呼ばれる一派を作られた小田野直武さんの特集した番組です。「神奈川県議会中継」が12月19、20日で、第3回定例会になります。その後12月24日「たばこはそんなに悪いのですか?」ということで、喫煙文化研究会さんというところからの営業持ち込みです。同じく24日「柴田理恵のよってかれ とやま観光開発事業団 富山市編」はKNBさん、富山にあります北日本放送さんが制作しています。柴田理恵さんは富山県出身で富山市の特別副市長をやられているということで、北日本放送さんの観光番組を購入しての編成となっております。12月27日は「横浜市会ダイジェスト」、こちらは第4回定例会です。12月29日「ブリリアショートショートシアター」はまだ仮ですが、みなさんご存知のように、ブリリアショートショートシアターが12月2日で閉館してしまいます。定期建物賃貸借の期間で、その後の継続ができなかったということです。今までの歩みを私どもはいろんな情報番組でお世話になりましたので、ダイジェストにしてお送りしたいと思っております。12月30日は「横濱馬車道物語」の再放送です。12月30日、こちらも毎年恒例の「全国高校ラグビー大会」、MBSさん大阪毎日放送さん制作の模様をお送りします。桐蔭学園高校が出ております。12月30日午後5時から「ベ이스ターズ特番」。これも仮ですが、先ほど押川からもありましたが、劇的に日本シリーズまで行き

まして、最後の最後までひょっとしたらという激戦を繰り広げましたが、特番を編成させていただきます。12月31日は「高校サッカー壮行特番」で、これは優勝校が決まりましたら特番という形でお送りします。「全国高校サッカー開会式」。開会式自体は30日に行われますが、こちらは日本テレビさんから頂き、オンエアします。12月31日「かながわ感動介護大賞」です。これも神奈川県さんが平成24年度に創設した「かながわ感動介護大賞 ありがとうを届けたい」と、私どももずっと放送していますが、毎年恒例でこちらを放送させていただきます。12月31日「韓国観光特番放送(こりゃ)すごい!～オイシイ韓国旅～」。営業持ち込みですが韓国の観光特番になります。12月31日日曜日の「年越し特番(仮)」とありまして、こちらは生放送ではありません。録画になります。今年はベ이스ターズをはじめ、神奈川大学の全日本大学駅伝の優勝、湘南ベルマーレのJ1昇格などもありまして、2017年の神奈川スポーツを振り返る年越し特番として編成いたします。その他にBリーグやJ2だったり、その他神奈川ゆかりのスポーツチームの皆さんにご出演いただいております。元日は毎年恒例になります、「横浜市新春特番」、「川崎市新春特番」、「相模原市新春特番」がございます。元日夜には「全国高校ラグビー」も放映します。1月2日は毎年恒例の「横浜市会議長・副議長新春対談」、「全国高校サッカー選手権・2回戦」。神奈川代表は2回戦からの出場と、昨日の抽選会で決まりました。「童謡コーラス 新春名曲合唱会」こちらはレギュラー番組で毎年恒例の新春特番という形でお送りします。1月3日は「川崎市会議長・副議長新春対談」、「横浜市会各会派新春語り初め」、「全国高校サッカー選手権・3回戦」です。「発信!ミスキャン ME-BYO ラボ」。こちらも神奈川県さんの取り組みである未病をテーマにした番組をお届けします。その後3,5,6とありますが、「全国高校ラグビー大会」の準々決勝、準決勝。1月8日が「全国高校

サッカー選手権・決勝」で、生中継でお送りします。11月12月、年末年始の番組をご紹介させていただきました。以上になります。

山田委員長 ありがとうございます。事務局から11月から12月にかけての番組について説明がありましたが、これについてどなたかご意見、ご質問等がございましたら。

吉川委員 よろしいですか。

山田委員長 どうぞ。

吉川委員 12月24日の「たばこはそんなに悪いのですか?」というのが喫煙文化研究会の持ち込みと伺って。愛好家がいることはもちろんなんですが、くれぐれも科学的根拠がないことでキャンペーンが張られて、それに御社が結果として加担するようになってしまふ、そういうことのないように十分ご配慮いただいと
思うんですが。そこらへんは十分対策は。

近藤編成部長 そうですね。こちらの番組は以前にもオンエアさせていただいて、第2弾になります。確かに喫煙・禁煙ということはいろいろと議論されていますので、それは営業の方には申し付けています。

吉川委員 わかりました。

山田委員長 他にございませんか。高校ラグビーでは一昨日決勝が行われまして、桐蔭学園が東海大相模を下して去年に続いて出るんですが、高校サッカーはどこが
行きそうですか。

角田スポーツ部長 桐蔭学園、桐光学園、湘南学院、三浦学苑、4強が上がってきまして、実際現場にいる富樫の方が詳しいかもしれませんが、ちょっと話してみますか。

富樫スポーツ副部長 そうですね。第1試合は三浦学苑と桐光学園。今年の神奈川の特徴としてインターハイに出場した夏の優勝校、準優勝校の日大藤沢と東海大相模が破れている波乱の展開ということがあげられます。その中で残ってきた4校。第2

試合で桐蔭学園と湘南学院が対戦しますが、桐蔭学園はかつて全国大会、インターハイで優勝したことがある実績のあるチームですが、こちらもベスト 4 まで勝ち上がってきたのは久しぶりということで、有力選手が多いとされているのは桐光学園ですが、他のチームにも波乱の大会で勝ち上がるチャンスは十分あると思います。今年の大会は大いに盛り上がるのではないかと期待しております。

山田委員長 ありがとうございます。今朝の新聞で、もう全部抽選が行われて試合日程が組まれていますよね。神奈川とあと2つぐらいありましたかね、まだ出場校が決まっていないところが。ありがとうございます。他にございませんか。

吉川委員 もう1個いいですか。

山田委員長 はい、どうぞ。

吉川委員 Jリーグなんですが、今回もありましたが、フロンターレがこれだけ盛り上がっている中、11月29日は放映権はないんですか。

富樫スポーツ副部長 11月29日のフロンターレは埼玉スタジアムで浦和レッズと対戦ということをご存知だと思いますが、こちらについては編成部から。

近藤編成部長 はい。Jリーグさんから連絡が来て、ホームの試合を2試合放映しないとアウェーの試合がとれないというルールがあるんです。なので、今回やはり盛り上がっているところで検討したんですが、しかも埼玉さんがお作りになられるのです。ですが、私どもでホームの試合ができていないのでこちらの方を断念せざるを得なかったというのが実情です。

吉川委員 よくわかりました。

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、2番目の視聴合評に移りたいと思います。

近藤編成部長 本日の視聴合評はJリーグサポート番組です。「ファイト!!川崎フロンターレ」毎

週金曜日の午後 10 時 30 分から 10 時 55 分の 25 分番組になります。本日は角田スポーツ部長と富樫スポーツ副部長に同席願っています。よろしくお願いいたします。

視 聴 合 評

山田委員長 ありがとうございます。たしか今年の 6 月でしたか、「KICK OFF F・Marinos」という番組の視聴合評をしましたが、それとは当然違うと思いますが、今回の番組についてコンセプトなどをお話いただけますか。富樫さんの方から。

角田スポーツ部長 私から一言だけ。

山田委員長 よろしくお願ひします。

角田スポーツ部長 今お話しいただいたように「KICK OFF F・Marinos」と並ぶ tvk の金曜夜のサッカー、J リーグの番組ということで、夜 10 時から「KICK OFF F・Marinos」、10 時 30 分から「ファイト!川崎フロンターレ」ということで、長らくサッカーファン、J リーグファンの方々にはおなじみの番組として放送させていただいております。長らく J リーグの創成期から始まった番組でありまして、熱狂的なファンの方々の支持を得ていると思います。実際の番組の中身については富樫の方からお話いたします。

富樫スポーツ副部長 はい。この 10 月 1 日からこの「ファイト!川崎フロンターレ」のスポーツ副部長を担当しております。この番組がスタートしたのは、元々前身の番組「めざせ J リーグ 川崎フロンターレ」として、1997 年に初回放送がありました。当時は J リーグは 1 部だけで、その下に JFL という今の J2 に当たる組織がございまして、その JFL に所属して J リーグ昇格を目指しているという時代でした。そして悲願の J1 初昇格というのが 2000 年にありまして、この 2000 年のときに「ファイト!川崎フロンターレ」という現在の番組タイトルに変更しております。その後は残念ながら 1 年で降格してしまったり、苦しい時代もあった中で、番組は一時月 1 回の放

送に縮小したこともあったのですが、2000年の「ファイト!川崎フロンターレ」というタイトルでスタートしてから、このご覧いただいた放送回が798回でした。まもなく800回を迎えます。番組の中では主にダイジェスト映像を中心にナレーションと現場でのロケ、リポートを中心に構成するんですが、今年の1月からは川崎市のご当地アイドル川崎純情小町☆の5人が週替わりで担当しています。概略は以上です。

山田委員長

ありがとうございました。それでは委員の皆さんからご意見、ご質問等を伺います。それではまずトップバッターはサッカーに関心が深そうな吉川さんからお願います。

吉川委員

まずレポーターの「どうぞ」の次にいきなり、敗戦の試合のゲームセットの瞬間の映像から流れるということで、非常にインパクトがありました。とても趣向を凝らした構成だったと思います。ある意味情報番組らしくないというところで、こういう構成に賛否が分かれるかもしれませんが、私としては、どうせこれはファンのための番組だということを考えると、試合の時の気持ちに再び蘇って浸れるのはとてもいい構成ではないかと思いました。撮っている映像もすごく良くて、応援グッズの仕込みの、試合前のファンの熱い思いから、テレビで見守る人、商店街の人、いろいろ皆さんサポーターの熱き思いみたいなものが、説明が何もいらなくてわかる、伝わってくる映像が次々流れて。かといって試合の決定的なシーンや試合の概要もしっかり追えていて、失点した直後の選手やサポーターの表情を的確にとらえていて、まさに選手、サポーターが一体となっている姿が、映像だけでよく伝わってきたなど。で、何よりも後ろに流れるあの歌が、本当にチームの気持ちをよく表していて、あのルヴァンは準優勝で負けてしまったけれど、Jリーグの最後の優勝はまだあきらめないぞど「カウントテンだけは数えない」という歌詞が流れる中で、サポーターがまさにあの歌に自分た

ちの気持ちを載せられるのではないかなと思って。この歌は、後でお聞きしたいのですが、オリジナルですか。もし前にすでにあったとしたら、この歌を選んできたというところはすごいなと感服いたしました。その次に、今度はルヴァンの雪辱を同じカードでユースカップが果たしたというニュースも、とてもドラマチックなストーリーでよかったですと思いますし、こっちはわりと情報番組、試合の状況を情報番組風に伝えていましたが、よかったですと思ったのは、カメラワークが引きで全体の選手の動きをとらえるときと、より寄りになってボールを持った選手の動きや表情とかを抑えるのがとても流れが見やすく。しかも適度な大きさで、視聴者である私が見たいと思う寸法で見れていたのも、無理なく流れを追えてよかったです。これはたぶんサッカーがちゃんと好きなカメラマンが撮っているんだろうなと思いました。ただ、苦言というかより良い番組にしていたくために、敢えて細かいことを申し上げると、レポーターの質というか、川崎純情小町の説明がありましたが、関係があると思うんですが、「みなさん、こんばんは」というのが明るいピーカンのスタジアムの景色で入ってくるというのは、ちょっと「みなさん、こんばんは」のセリフともそぐわないし、レポーターの滑舌が悪いのがとても気になりました。レポーターつながりでいえば、試合に負けた直後の締めあいさつが片方の橋本さんという方が涙声で何を言っているのかも聞きづらいような声になっちゃっているんですけど、ファンにとってはそこも感情移入でよいと思う人もいるかもしれませんが、やっぱりレポートなので滑舌はきちんと、伝えたいことはきちっと伝えてもらうというのが最低限必要かなと。それとスタジオトークも、シュラスコがどういうものかわからないという一人を置き去りにして、あとの二人がどんどんトークを進めていっちゃうんですけど、その後バナナジュースも知らない、ぼけていたので、あれは敢えてぼけたのかもしれないけど、視聴者の中にもシュラスコ料理を知らない人

はいるはずで、何も説明しないまま最後までいって、「知らないのだったら食べてみれば」ということで終わらせちゃうのは、スタジオトークとしても不親切で、もうちょっとスタジオトークの質を上げてもらったらいいかなと思いました。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。今音楽の件などで質問がありましたし、いろいろ苦言もいくつか出ましたが、それは最後に、いやそうじゃないのだということで、まとめてお話ししていただければと思います。続きまして林さんお願いします。

林委員 僕は吉川さんと重なるところと全く違うところがあって。富樫さんのスポーツ副部長ということで、昔からのお馴染みなのでちょっと厳しいことを言うかもしれませんが、これはあくまで私の感想です。ひとつ同じ意見だったのは、純情娘の方たちが、あれでは感情を移入しすぎて、見ている方がしらけてしまう。特に右側に立っていた方は、橋本さんかな。ちょっとどうなのかなという気はしました。気持ちはわかるのですが、そこはプロだからね。それから僕はフォークソング、僕らが学生の頃流行ったタッチの歌だと思うのですが、何も流さなくてもいいと思いました。あれはどう選ばれたのか、それを彼女も聞いたがっていたから、後で教えていただければありがたいです。誰が歌っているのかもわからなくて、最後にテロップを何度も見たのだけど。ちょっとそれが不親切だったような気がします。好き嫌いなので、そういう視聴者もいるということなので。ちょっと長くない？あれ、4分ぐらい流れていた？

富樫スポーツ副部長 あのVTR自体は8分ぐらい。

林委員 ああいう歌が好きな方がいらっしやると思うけど。

富樫スポーツ副部長 そういったご意見も大事です。

林委員 もうちょっと淡々とした歌をあれすればいいけど。川崎がいつももう一步というところでリーグ戦でも敗れていますよね。

富樫スポーツ副部長 準優勝が8回です。

林委員 今期はまだかろうじて残っていますので期待していますけど。僕が2001年に川崎を担当していた頃にJリーグに上がったり浮いたり沈んだりしている頃で、正直言ってこういうふうになるとは思っていなかったのですが、そういう意味では非常にうれしいのですが。なぜ何回も挑戦して何回も敗れていくのかということ、やはり第三者的なプロの目で語ってほしかったですね。小林選手は非常に真摯に答えていて、非常に好感を持ってました。できれば監督の話も聞きたかったのですが、それはスポーツ副部長のいろいろなお考えもあるでしょうから、むしろ監督がどういうふうにいるのかということを知りたいのですが、それも後で教えていただければと思いました。それから真ん中にプロモーションコーナーがありましたが、どういうふうにしてあんなに長い時間流すのかなと思ったのですが。スポンサーなのですかね。

富樫スポーツ副部長 その試合のスポンサーで、番組をご覧の皆さんにとっては、今度のホームゲームに行われるイベントのご案内ということです。

林委員 真ん中の男性がどういう立場なのか、僕は毎回見ていないのでわからなかったのですが。フォークシンガーの名前とか、その男性の、あまりくどくどと説明する必要はないと思うのだけど、ちょっとその点不親切じゃなかったかなと思いました。サッカーはサッカーで見せてほしかったなど。

山田委員長 ありがとうございます。続きまして五大さん。

五大委員 重なってしまうのですが、最初のレポーターの女の子が何を言っているかわからなかったのも、やはりそれは言葉を伝達しなければいけないので、それだけは最低限ちょっと練習してほしいと思いました。かわいいけれど。映像自体は素晴らしいと思いました。いろんな人の表情を。商店街の方とか、あれは素敵だなと思いました。音楽はちょっと長いかなというのがありましたけど。

最初ミュージックビデオを見ているみたいで、私はサッカーがあまり詳しくなくて、楽しかったですが、だんだん長いかなと感じました。でもその人たちの表情が見られて、サッカーファンの人たちの思いは映像を通して伝わってきました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして白石さん。

白石委員

私は吉川さんと林さん、どちらをとるかという吉川さんです。歌っている人と、よくカメラマンが接近してうまく撮っていて、歌と画像が非常によくて。涙とか悔しさ、残念とか、期待とかチャレンジャーとか、力不足とか。みんな画面と歌詞の中から汲み取れました。私は敢えていうと大好きだと。林さんより吉川さんの方が大好きだと。歌詞はわからなかったのですが、曲名を教えていただければ。サッカーをああいう形で、画像で見たのは初めてで、感動しました、正直言って。林さんごめんなさい。

林委員

いえいえ、私が偏屈なだけな話です。

白石委員

非常によかったです。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続いて伊藤さんお願いします。

伊藤委員

あまりサッカーに詳しくないので、そういう立場からの意見として聞いていただければと思います。あの場面自体はすみません、初見だったのですね。ある種の個性を非常に強く感じました。番組としての個性ですね。前にマリノスの番組も何回かこちらでも見ていますが、2つの番組の個性は、同じ局で作っているのに、ディレクションを含めどのような差別化を意図されているのか、ぜひ聞かせていただきたいと思いました。すごくマリノスの番組と、優劣とは別の次元で個性を強く感じました。それは皆さんが触れていました、決勝戦のダイジェストに尽きるのですが。私もブルース的な要素の強いフォークは嫌いじゃないのですが、なぜあの曲でいったのかというのはやはり、最後まで疑問が残る感じでした。

ただ映像は、普段からこまめに撮っていないと絶対撮れない映像というのが多々見受けられたので、そういうところでは「ファンのための番組」と吉川さんもおっしゃっていましたが、本当の意味でのファンのための番組になりえていて、素晴らしいと思いました。あと、YBC ルヴァンカップというのが何ものか、どういうポジションなのかということが、すみません、ネットで調べてもやはり今一つ分からないぐらいだったんですね。そこはなんとなく、読み上げでもいいので触れてもらった方が、やはりビギナー的なファンの方にも「あ、これは結構価値があるんだな」とか、「いやいやまだまだ他がある」とか、そういう期待を継続させるための要素にもなるので、解説をうまく入れていただくといいなと思いました。川崎純情小町はかわいいですね。どういう人たちなのか番組を見ている中ではわからなかったのです。川崎純情小町の、ももちゃんと、あかりさんと、ミリエルと。

富樫スポーツ副部長 あずあずと、かおりんと。5人です。

伊藤委員 せっかくやっているのです、そういうのをキャッチフレーズみたいに。川崎純情小町のセールスとしても全然苦じゃないと思います。いずれにしても神奈川県はプロスポーツをたくさん抱えていて、スポーツ県でありスポーツを積極的に扱う tvk の特色の一つになると思いました。

山田委員長 ありがとうございます。私も楽しい番組として見させていただきました。特に試合中のカメラワークが良かったなと思いました。引きと寄りが的確に出ているように思いました。それと先ほどから話題になっているバックの音楽について。これを 30 分番組で見たときには、ものすごくちょっと鼻について、「これは必要ないんじゃないか」と思ったのですが、今ここで見るとそんなには気にならなかった。でも 30 分番組として見た分には、あれは歌詞を入れなくて静かな曲だけ流しておいた方がよかったのではないかと思います。こら辺は吉川さ

んには悪いのですが、ちょっと林さん寄りかなと。これは後でお答え頂ければよろしいですが、これは富士通さんがスポンサーになっていますね。番組内容のチェックなどがあるかどうか、それを最後にお答えいただければと思います。それとバナナのコーナーがあって、バイキングのような形でこの辺につけていましたが、あれはいかがなものかなと。今日は JA の二宮さんがいらっやっています、JA としての見解も実は聞きたかったなど。バナナは最近でこそ、安くなって庶民の果物ですが、私の子供のころバナナは高価なもので、遠足でも持っている人は少なかったのです。時代は変わったのですが、バナナをああいふうにしてよかったのかなとちょっと気になりました。他に言い足りないこと、言い忘れたことがございましたら。よろしいですか。では富樫さんの方からいろいろ反論もあろうかと思えますし、質問がありましたのでお答えいただければと思います。

富樫スポーツ副部長 まず先ほどから話題に上がっている番組の構成という点からお話しさせてください。この 11 月 10 日放送分はレギュラーとは違う手法を取りました。というのも、ルヴァンカップの優勝を取り上げてチームの初優勝を祝う番組作りを目指して取材をしていたからこそ、商店街の取材もありまして。その初優勝のビラを準備している方々にお話を伺ったりということもありました。これでルヴァンカップは 4 回、Jリーグが 3 回、天皇杯で 1 回、合計 8 回の準優勝という悔しい歴史がありまして。優勝のタイトルを手にするには、チームとサポーター共通の悲願といってもいいのです。今回ルヴァンカップは 8 年ぶり 4 回目の決勝進出ということで、優勝できなかったことへの喪失感は非常に大きくて。決勝が行われた 11 月 4 日から日も経っているので、本来の構成であれば、このルヴァンカップ決勝の後に放送で紹介した J ユースカップ準々決勝のような、ナレーションと BGM で試合を振り返るといったのがレギュラーの方式ですが、こ

は結果が分かっていることを通常のやり方をするのではなく、もっと地域の人たちだとかも含めた皆さんの表情をストレートに表現した方がいいのではないかと、頭を悩ませた結果としてこのような攻めのスタイルをとらせていただきました。BGM、確かに曲名やアーティストのお名前は表示すべきだったと思います。竹原ピストルさんという方の「カウント 10」という曲です。なぜ選んだのかというと、これはあるチームスタッフと番組制作スタッフとで、BGM 構成で皆さんの表情をお伝えするやり方の中で、どの BGM がいいのだろうと、いろいろ検討を重ねた中で、そのチームスタッフが、やはり今年 1 月の天皇杯の決勝で敗れて準優勝に終わったときに、この曲を聴いて気持ちが切り替えられて、前向きになれたので、だからこの曲でやってはどうかというアイデアをもらって今回取り入れました。その竹原ピストルさんについて初めてお聞きになった方もいらっしゃるかもしれませんが、最近ですと、生命保険会社の CM ソングで非常に話題になって。ちょうどこの「ファイフロ」の放送が行われた数日後に紅白出場決定の発表がありました。というタイミングも本当に偶然ですが、竹原ピストルさんをご存じなかった皆さんにとっても大変なインパクトになったでしょうし、話題のアーティストを BGM として選曲できたことも良かったと思います。番組構成の変更や BGM についてはいろいろなご意見をいただいております。いい意見としては「感動した」とか「保存版にして、悔しいことがあったら見直したい」とか「選手、サポーター、地域の人たちが多角的に取り上げられて厚みがあった」というご意見もいただいて、これは大変励みになったのですが。一方で今皆さんからのご指摘にもあったように、「番組としてちゃんとこの決勝戦について語るべきだったのではないか」とか「BGM はこれでもよかったのではないか」というご意見もいただいております。そういったご意見をこれからも受け止めながらより多くの共感を得られるような番組を目指してい

ければと思っています。それから川崎純情小町についてですが、この番組の MC になったのは今年の 1 月の放送回からです。小町自体は 2011 年の 10 月に結成されていて、川崎の魅力を全国や世界に伝える様々な活動をしております。これが川崎市のイメージアップ事業、宮前区誕生 30 周年記念協賛事業に認定されているグループです。フロンターレは非常に地域に根差して活動することが特徴と言ってもいいぐらいのチームでして、先日も多摩川河川敷で「多摩川エコラシコ」と、サポーターや地域の皆さん方と選手会が主催でゴミ拾いをする。これはもう 9 年やっているそうです。そういう地域密着を掲げている川崎フロンターレと、地域の情報を積極的に発信するというご当地アイドル、川崎純情小町☆のテイストが合うのではないかとということで、番組 MC を務めています。ご覧のようにレポートや選手インタビュー、お知らせコーナーなどまじめなものからバラエティ色の強いものまで担当しているのですが、その中でちょっとおふざけが過ぎる回があったりとか、それから感極まってあのように言葉が判然としないぐらいに、涙があふれんばかりになってしまったりというところも含めての川崎純情小町だと思っておりますので、番組として彼女たちもこれから成長していってくればいいのかと思います。お知らせのコーナーに出ていた男性は、川崎フロンターレのチームスタッフです。この番組は MC がイベントお知らせを原稿で読むというよりも、チームのスタッフが自らこのイベントの魅力がどうなのかということアピールすることが行われています。それについては決して彼らもしゃべりのプロではないですし、聞きやすいかどうか、それからお知らせコーナーとしてはちょっと長いんじゃないかというご指摘もあるのですが、スタッフだからこそ知るイベントの裏側とか、「こういうところが魅力です」という訴求力は、そこは思い入れが出るコーナーになっていいのではないかと思います。それからマリノスの番組とフロンターレの番組との

違いは、よく皆さんにご指摘をいただくところでして、6月に視聴合評を頂いたときにも話題に出ていたと思うのですが、マリノスの番組が「日産サッカーダイジェスト」時代からの長い番組で、スタジオでかつては加茂周さんが実際に出演されゲームの解説をされたこともあったそうで。サッカーの現場にいる方の、玄人な解説を積み上げてきた番組だと思います。一方で私どものフロンターレの応援番組は後発ですし、97年から前身の番組がスタートするにあたって、当時の担当者がどういう思いで構成したかはわからないんですが、ナレーションベースの、試合の映像を使ったテンポの良い試合の振り返りというのが、ちょうどそこを狙ったものかどうかは今となっては分からないのですが、マリノスとフロンターレで全くカラーの違う番組の作り方になっているのは、個性の発揮の仕方として間違っていないということ、今感じながらやっています。

山田委員長 細かく説明していただきましたが、何か質問等はございますか。

林委員 いや、よくわかりました。

富樫スポーツ副部長 もちろん林さんのようなご指摘も、番組が成長するには大変必要なところですから。

山田委員長 それとスポンサーの、今の番組について富士通のチェックみたいなものはあるのですか。

富樫スポーツ副部長 いえ、特に富士通さんに事前チェックを受けるとか、川崎フロンターレというチームから放送チェックを受けることはありません。

山田委員長 わかりました。他にご質問等、よろしいですか。それでは時間も詰まってきましたので、3番目その他報告事項にいきたいと思います。

近藤編成部長 それではその他報告事項、まず視聴者対応はお手元の「視聴者対応について」がございます。一番最後のベイスターズについてのご意見。こちらはメールからのご意見で、お電話も非常にたくさんいただきました。「なぜ放送できな

いのか「放送してほしい」と、ベ이스ターズに関してはたくさんのご意見をいただいた10月になっております。視聴者対応については以上になります。

山田委員長 ありがとうございます。視聴者対応についてご意見ご質問等がありますか。ないようでしたら、前回の審議会の議事報告に移りたいと思います。

近藤編成部長 それでは前回第379回放送番組審議会の議事報告になります。

議 事 報 告

山田委員長 これで本日の議題はすべて終了いたしました。皆さんの方でお話しいたことはございますか。事務局から何か通達事項はございますか。

近藤編成部長 単発番組でひとつ訂正させてください。12月31日の「かながわ感動介護大賞」、これは「営業持ち込み」となっていますが、tvk制作番組です。お手元に「BPO報告」をお配りしています。前回は審議会に出たと思います「ニュース女子」についても詳しく書かれています。11月のBPOも終了いたしまして、意見書が提出されているはずですので、おそらくBPOの判断としては年末年始でTOKYO MX テレビさんの方に出されるのではないかと考えております。それとこちら、中身ですが6ページ目に「中高生モニター報告」というところで、「部活応援プロジェクト しゃかりき!」という番組ですが、たまたま愛媛の高校2年生が横浜で見て、BPOに報告をして頂いています。「自分が住んでいる県のテレビ局にも、部活動を応援する番組を制作して欲しい」という感想を述べた報告があったということで、BPOの先生の方から「さりげない意見ではあるが、中高生の関心事が番組のテーマになることが実は少なかったということを感じさせてくれた。ちょっと考える必要があるような気がする」ということで、BPOからもご感想をいただいております。お時間があるときにまたご覧頂ければと思います。それでは次回の放送番組審議会のご案内です。1月16日火曜日午後2時から3時30分、こちらの2階テレビ神奈川第1会議室で行います。

次回の視聴合評番組は大みそかに行われます「年越し特番」になります。こちらは 115 分番組を予定しており、ちょっと長めの尺になりますが、ぜひご覧頂きまして皆さまの貴重なご意見をいただければと思います。事務局からは以上です。

山田委員長

それでは時間にもなりましたので、本日は、これにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。